

2020 年度



## Globe 実践をふり返って

東川中学校

### 研究開発の今年度の重点

#### 1 カリキュラムの見直し

- (1) Globe 授業にかかわる指導方法、評価方法の充実
- (2) Communication 要素の評価 (CAN-DO リスト) の充実

#### 2 国際教育の接続について

- (1) Local/Global 要素の系統性の確立
- (2) 教科横断的指導の充実

### 本校の研究（校内研修）の概要

#### I 研修テーマ

「主体的に学び、学びを生かそうとする力を育む教育課程の創造」  
～グローバル化する社会で活躍できる生徒の育成を目指して～

#### II 研修内容

##### (1) 教科横断的な視点を取り入れた指導計画の工夫

- ・教科等間の内容事項について、相互の関連付けや横断を図る手立てや体制を整える。  
→今までの Globe 別様に改良を加えて教科横断的な指導を充実させることを目指していく。  
他教科の教育課程においても Globe 以外の教科との関連を図る改善を進めていく

##### (2) 生徒の主体的・対話的な学びを保障する学習活動の工夫

###### ① 「主体的に学び、学びを生かそうとする力」を身に付けるための学びの過程

- (ア) 自ら課題を見つけること                      (イ) 自ら学ぶこと                      (ウ) 自ら考えること
- (エ) 主体的に判断すること                      (オ) よりよく解決する能力を身に付けること

###### ② 「主体的に学び、学びを生かそうとする力」を身に付けるための場面

- (ア) 自ら学ぶ、共に学ぶ場面                      (イ) 多面的、総合的に考える場面
- (ウ) 主体的に課題を解決する場面

##### (3) 生徒自身が自らの学びを振り返り、指導の改善に生かすための評価の工夫

- ・「主体的に学習に取り組む態度」に重点を置いて研究を進めていく。
- ・日々の記録やポートフォリオなどを通じて、子供たち自身が把握できるようにしていく。



## 2. 国際教育の接続について

### 【Local / Global 要素の系統性】

中学校3年 Globe 4 「災害」～災害や緊急時の対応について、自分たちができることを考えよう～の単元では、東日本大震災時や北海道胆振東部地震による大規模停電（ブラックアウト）について学習した。当時の様子を映像で見るだけでなく、胆振東部地震の際に起きた大規模停電によって東川町内のALTたちが不安な日々を過ごしたという体験談を（当時、実際にその体験をしたALTから）生徒に話し、外国人から見た日本や東川町での対応についても学習した。



単元のまとめとして、災害や緊急時の対応についてロールプレイングを通して、困っている外国人に対して、何が出来るかを考えて行動する活動をした。事前にいくつかの緊急時の場面設定を説明していた際に、ALT、CIR、SEA から自然な声のかけ方や、日本に来て困った経験や、どのように助けてくれるとありがたいかなどを伝えてくれたことによって、より実践的なやりとりになった。また、ロールプレイング後に、ALTたちのそれぞれの出身地、または日本にきて体験した災害や緊急時の対応などを話す時間では、即興で質問し、会話をつづけようとする姿があった。



災害のとき、外国人は日本語が読めるかどうか分からないのニュースや放送を聞いてどうすれば良いのかわからないことがあった。このことから災害のときには不安な気持ちでいるということがわかったので、普段から近所に住んでいる外国人に対して近所付き合いをして、言葉をかけられるように替えていきたいと思った

### 【教科横断的な取り組み】

本校ではGlobeの別葉をもとに、教科横断的な授業実践をした。

中学2年Globe5「Universal Design (UD)」の学習では、UDの考えを入れた商品開発を行う単元である。その1つとして、本校の美術科教師にゲストティーチャーとして授業に招き、「色覚障がいのある人から見た世界」についてiPadを用いた体験的な学習を展開した。アプリを通してみた画面上には、3タイプの色覚をもった人から見える世界を確認し、ユニバーサルカラーの重要性を体験することができた。



また、単元の終末に東川町にある旭川福祉専門学校へ行き、ユニバーサルデザインについての説明を聞いたり、車イス体験をした。

この体験学習を通して福祉について考えたことがなかった生徒が多かったが、身近な問題として真剣に捉える生徒が増えた。



・エニバーサルデザインに力を入れているのは、自分たちが思っているよりもっと多くのエニバーサルデザインが身近にあることを確認した。特に、共通の目的の上にあることは、みんながわかるのに気が付いた。だから、自分たちが思っている人から、いろいろな人を見て、見えるように工夫されているものがたくさんある。そういうのを考えて、みんながわかるように工夫した。また、一部の人は使えなかったり、物や仕組みがある。そういうのを工夫して、みんながわかるように工夫した。

### 3. 今年度の成果と課題

#### 【Communication 要素】

- コロナ渦で、町内の人材を活用した取組が例年よりも少なくなってしまったのが残念であった。しかし、Globe Trial や ALT たちを呼んで行った授業を通して、英語で話したいと思っている生徒が増えていることもわかった。
- ALT たちとの交流できる場面で、質問されたことに対して即興で答えたり、なんとか答えよう・伝えようとする時間をより充実したものにしていく工夫が必要である。  
→Globe Trial のテーマ設定や、ゲストで来てもらう回数を増やすなど

#### 【Local / Global 要素】

- 教科横断的な視点を取り入れた指導計画の工夫  
→別葉を活用し、授業実践を行うことができた。2年生の授業では、単元の最後の製品開発で、多角的に考えることができた。また、他教科で学習した内容と関連させながら学習を進めることができるので、生徒自身の気付きや発見も多く充実した時間になった。
- SDGs の考えを取り入れた単元デザインに基づき、JAICA のワークショップ形式を取り入れた授業を位置づけるなど、東川町発→世界の今日的な課題→東川着・・・自分事として捉える、Local/Global 要素の関連を意識した単元デザイン工夫を行うことができた。(3年 Globe 6 など)
- 他教科の教育課程においても Globe 以外の教科との関連を図ることが必要  
→学習内容にとらわれすぎずに、指導方法やアプローチの仕方、生徒の発表の仕方など共有していけるとよいと考える。次年度以降、本格的に iPad が導入されることもあるので、各教科で繋がりをもって指導していけるとよいと考える。